

研究・実践助成 選考基準および研究成果の評価等について

(一財)住総研の「研究・実践助成」は、住関連分野における研究の発展や研究者・実践者の育成及び支援の観点から、将来の「住生活の向上」に役立つ内容で、学術的に質が高く、社会的要請の強い又は先見性や発展性等が期待できる「未発表」の「研究」・「実践研究」活動に対して助成します。

1. 選考基準・方法

1) 選考基準

目的・課題の設定が明確で、研究として一定の水準に達すること、新たな知見が存在すること、が期待され、かつ以下の一つ以上の項目に該当すると判断されるものとします。

- 1)学術的に質の高い研究成果。
- 2)公益性を有し、社会的要請が高い課題への取組み。
- 3)先見性・独創性に富み、将来の発展性が期待できる課題への取組み。
- 4)社会的な実用性の向上に貢献する事が期待できる取組み。
- 5)将来の成長が期待できる若手研究者による取組み。

2) 選考方法

都市計画、建築計画、建築史、住居学、建築経済、環境、構工法などの、住に関わる多様な専門分野の研究者で構成された選考委員会（研究運営委員会）の中で主担当・副担当を選任し選考を行い、委員合議の上、採否を決定します。

2. 研究成果の評価等

1) 評価と公開

提出された研究論文は、選考委員会（研究運営委員会）で査読し、主担当・副担当が作成した研究評をもとに、委員が合議して、評価をとりまとめます。

なお、これらの研究評は、研究論文とともに『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載します。但し、評価段階で期待した成果に不十分であると判断した場合は、その年度の『住総研 研究論文集・実践研究報告集』には不掲載とし、次年度以降に再提出を求めることがあります。

2) 住総研「研究・実践選奨」及び「研究・実践選奨 奨励賞」

『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載する論文の中から、明確な問題意識、学問領域を超えた多彩なメンバーによる研究チーム構成、具体的で豊富な調査、新しい事実の発見、研究成果の発展的広がりなどに優れたものを住総研「研究・実践選奨」（2～4 編程度）及び「研究・実践選奨 奨励賞」（1～2 編程度）として選出します。

また、発表の機会を設けると共に、当財団ホームページ上で、受賞者リストと成果発表動画等を公開します。

3) 助成件数・金額の拡大（新設/有期）

従来の研究・実践助成件数と助成金額を拡大します。助成枠は従来の 20 件程度から 25 件程度、助成額は従来の 100 万円から 130 万円（上限）/件に拡大します。

なお、助成件数・金額の拡大は、いずれも 2021 年度研究・実践助成(2020 年 10 月募集)から当面 5 年間で予定しています。

選考委員会（研究運営委員会）（2022 年度）（委員五十音順）

委員長	秋元 孝之	（芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授）
委員	大橋 竜太	（東京家政学院大学 現代生活学部 教授）
	蟹澤 宏剛	（芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授）
	小泉 秀樹	（東京大学先端科学技術研究センター 教授）
	小伊藤亜希子	（大阪公立大学大学院 生活科学研究科 教授）
	齊藤 広子	（横浜市立大学 国際教養学部 教授）